

「ゆめはまミーティング＜要支援＞」 事後アンケート（自由記載）

（R7.4～

普段、利用者様をご支援する中で、多職種や地域包括支援センターからアドバイス、助言などを受けたいと思われることがあれば、ご記入ください。

司会、包括の声が小さい。
声を張らないならマイクを使って欲しい

自立度が高い利用者は、他と比べて接する時間が少なくなり深く関わるのがなく時間が過ぎていく傾向がありますが、このような機会に他職種の意見や考えを聞かせていただく事で新たな発見がありました。

ケアマネージメントの視点に気づきがありとても勉強になりました。今後の取り組みに活かしていきたいと思いました。終活登録事業の提案をしていきます。それに伴って、災害時の福祉避難所など、災害時の事を利用者様と一緒に考えていきたいと思いました。ありがとうございました。

司会の声が小さいとアドバイザーの音が小さくなり大変聞き辛かった。

今回は、管理者としては参加させていただきました。担当ケアマネは、ご本人の意向を引き出すタイミングに悩んでいたところもあり、参加にあたって、「人となり」を知ること。生活歴からその人の性格や個性を想像することで、話を膨らませていきタイミングをつかむ。改めて気づかせていただきました。

本日は、たくさんのお時間を頂き、貴重なご助言、ありがとうございました。
日常業務のなかで、所内で同職種と共に業務をしているにも関わらず、相談や意見(スーパービジョン)を受けるタイミングが無かったなと、気づかされました。
今回、改めてですが。情報の整理をする事も必要ですが。
本人をもっと知ること、距離を近づける方法を、今日のミーティングで収穫出来たかと思いました。
予防ケースだから〇〇は自立、大丈夫という物差しは捨てて、小さい積み重ねを行い、緊急や本人からのサインがあった時にキャッチ出来ればと、振り返りが出来ました。

一居宅のケアマネだと、多職種の方や、他の居宅さんに関わる機会がないので、色々な体験談など、お聞きできて良かったと思います。
ありがとうございました。

今後の支援に役立つ助言を沢山いただきありがとうございました。

医療、栄養、近隣やボランティア等の視点は忘れられがちだと思っています。

医療、介護業界以外の職種の方(一般企業総務、人事課、社労士等)と仕事と介護両立について、お話ができればとおまいます。

ケアマネさんが、本人の事を、何も問題ないとケースシートに書いていたが、それは違った。ちゃんとアセスメントすると本人の栄養面とか、200メートル先まで歩けない、歩く自信がないという不安感から生まれてくる物であるということに気づいて良かったというコメントもあった。ピンチをチャンスにではないからだ、リハ職同士と本人のADLのすり合わせや精神面での連携をとってもらって、本人にとってまだ若いので、こらからの楽しみが見つけられると良いと思った。ケアマネさんとの信頼関係で、本人の楽しみや目標としたい事が言葉にできると良いなと思った。

初めて参加させていただきました。
皆様のご意見をお伺いして、利用者様への視点をかえてみたり、新たな発見を探してみたりと、いつものケアをもっといい方向へいけるよう考えて行きたいと思いました。

参加者の皆さんから頂いたアドバイスは、新たな気づきで参加させてもらい良かったと思っています。

アドバイザーの皆様から様々な視点でのアドバイスをいただき、新たな気づきがありました。勉強になりました。ありがとうございました。